

令和5年度 上田市立豊殿小学校 自己評価 学校関係者評価 成果と課題・改善策と向上策

学校教育目標		めざす子どもの姿		総合評価						
実践心 力豊か である 向上心 子ども の持 育 成	心豊かな子:感じたことや、思ったことを自分の言葉で語れる子 向上心を持つ子:よりよい自分になろうと努力する子 実践力のある子:思いや考えたことを行動にうつせる子				成果と課題		学校関係者・ 学校運営委員評価		改善策・向上策	
	今年度の具体目標				A	B	C	D		
	1	自分の言葉で語る力				○			・ペアや小グループでの意見交換や話し合いの場を設けてどの子も、語る力を伸ばせるようにしていく。そのような学習活動を積極的に取り入れていくようにする。	
	2	よりよくなるよう努力する力				○			・「よりよくなりたい」と思える目標設定や活動をもてるように働きかけていきたい。 ・目標の振り返りをし、次の活動への課題を明らかにしていく。	
3	行動にうつす力				○			・行動できた姿を取り上げたり、褒めたりして、行動することの良さを感じたり、行動にうつそうとする雰囲気高めたい。 ・成功体験を積み重ね、自尊心や自信を育てられるよう努める。		

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
学校教育	学びづくり	わかる・できる工夫	・マグネットや小黒板などを使って、子どもの考えを整理したり、考えの変化がわかるようにしたりした授業ができたか。 ・学習の深まりや自己の変容が実感できるよう、まとめや振り返りの時間を確保したか。	・おおむね意識され、実践できている。 ・子どもの学習の意識の流れが分かる黒板づくりに努められた。		○			・引き続き、教材研究や児童一人ひとりあった支援の在り方を追究していく。 ・メリハリのある授業展開を心がけたい。
		探究的な学び	・子どもが語りたくなる場の設定や語る場の設定をしたか。 ・問いの解決に向けて、解決の見通しをもち、解決に向けて取り組む授業をしたか。 ・ICTを利用するなどして、個人や集団で探究(求)する授業を推進したか。	・おおむね意識され、実践できている。 ・子どもが感動したり問いをもったりしているよう、体験を大切に単元展開をつくっていく必要がある。		○			・ICTを利用して、互いの問い、悩み、問題解決の方向、学んだことや成長を共有できる方法を探っていく。 ・自分の考えをもつ場を確保する、互いの考えを比較し、相違点や共通点を見いだす場を設定するなどして、話し合いが活発になるよう、また、話し合うよさが感じられるようにしていく。
		主体的に学ぶ	・体験や経験、既習などから問いをもつ場面の設定や興味・関心がもてる単元(題材)との出合せができたか。 ・生活科や総合的な学習の時間を中心に、探究的な学習を行い、主体的に学ぶ力の育成に努めたか。 ・ポブラタイムを通し、自主的に学習に取り組むための力を育成したか。	・おおむね意識され、実践できている。 ・自分の考えをもち、互いに練り合ったり、試行錯誤をしたりするような単元展開をつくっていく必要がある。		○			・生活経験に近い場面設定や簡単すぎず難しすぎない課題を設定し、その中で生まれる子どもの興味やつぶやきを拾って、授業に位置付けるようにしていく。
	心づくり	気持ちの良い学校づくり	・気持ちよいあいさつや靴揃えを実践できるための取り組みをしたか。 ・進んでそうじに取り組めるよう、支援をしたか。 ・清掃ロッカー内や教室の整頓、ゴミ拾い、掲示物の確認など、整理整頓に努めたか。	・意識され、実践できている。 ・児童会活動を中心に、子どもたち同士で呼びかけ合う姿がみられた。		○			・定期的に、子ども同士、子どもと先生とで考え合ったり、こんなことしたということ共有したりする機会を多く設定する。
		宝の活用	・豊殿地域の宝である「ひと・もの・こと」との体験的な学習を充実させたか。	・おおむね意識され、実践が増えてきた。 ・棚田(3年)、畑(5年)、事業団体(4年)の活用の取り組みができた。		○			・地域と関わることでできる状況になってきたので、積極的に活用できるようにする。 ・地域にある財産の掘り起こし、連携の模索を積極的に図っていく。
		異年齢交流	・キッズ活動、わくわくタイム、児童会等の異年齢集団の活動で、相手意識をもって、自ら進んで活動できるよう支援したか。	・意識され、実践できている。 ・1年生が6年生の清掃の仕方から真剣に学ぶ姿があった。 ・5年生が2年生に本の読み聞かせるなど、多様な活動を企画・実行した。	○				・子どもたちが活動をつくりだしていけるよう支援する。 ・活動の子どもの姿から、その価値や意義を見だし、職員間、職員と子ども間で共有しながら、より深い交流活動を仕組んでいきたい。 ・年上から年下への関わりは良いが、下から上への関わり方は十分に考える必要がある。より良い関わり方を考えさせたい。
		早期の発見・対応 継続的な支援	・アンケート、個別懇談等を通して、悩んでいる子を見つけ、その子に必要なと考えられる指導や支援ができたか。 ・自己肯定感・自己有用感を涵養するための取り組みができたか。	・おおむね意識され、実践できている。 ・生徒指導主任、担任、校長、教頭がすぐに役割分担をして、迅速に対応した。 ・子どもの思いと育ちを大切にしたい指導を心掛けた。	○				・聞く時間をもっと取る必要があり、いろいろな先生方で協力しながら子どもたちの心のうちをくみ取ってあげられるようにした。今後も継続する。 ・職員間での連携をより意識し対応していく。
	体づくり	系統的・継続的な指導	・体みがき、食育、ネットモラル教育(メディアコントロール含)の指導を継続的に進めたか。	・おおむね意識され、実践できている。 ・給食後に位置受けられた歯磨き、定期的に行うメディアコントロールを通して、健康への意識を高めていく必要がある。		○			・体みがきについて具体的なイメージをもって、これから指導したい。 ・生活科での栽培活動とも関連付け、食糧生産に関する指導を続けていく。 ・継続ということを意識して粘り強く指導していく。
		安全管理・危機管理	・多様な想定による訓練を通し、「自分の命は自分で守る」ための指導ができたか。	・おおむね意識され、実践できている。 ・避難訓練を通して、自他の命を守ろうと子ども同士で声を掛け合う姿が見られた。		○			・引き続き、安全に生活していくためどうすればよいかということを児童と話し合っていく。 ・避難訓練の行い方など職員間で話し合い、より児童の課題にあったものに改善していく。 ・避難訓練の意義や目的を子どもと共有していく。
		健康な体づくり	・子どもたちが体力を向上させるため、食事を大切にする、徒歩で登下校する、マラソンをするなどに、自主的に取り組むよう指導したか。 ・手洗い、換気等の感染予防を行うことができたか。	・おおむね意識され、実践できている。 ・自分で健康な体をつくる態度を養えるよう、食事や給食の大切さを理解させていく必要がある。		○			・健康づくりに関わる活動の意義や目的を明確にして、活動に取り組ませる。また、自分の体を健康にするために、食事の大切さを理解させると共に、健康な体づくりを探究的に進めていく活動を設定していく。 ・安全だけでなく、健康に生活していくために大切なことを話題にし、児童と話し合っていく。
学校運営	連携	保護者との連携	・学級や子どもの様子が家庭に伝わるよう取り組んだか。 ・アンケートや懇談会等を通し、子どもや家庭の様子を伝えらるとともに、誠意をもって丁寧に対応することができたか。	・実践できている。 ・保護者と共に育てるチーム作りを進め、情報と指導の方向を共有しながら進められている。		○			・引き続き、保護者との連携を密にしていきたい。 ・職員間の情報の共有を密にし、迅速に対応する。
		幼保小中連携	・スムーズな受け入れ・進学のため、幼保小中連携事業を計画・実践できたか。	・実践できている。 ・幼保との連携を図り、共有した情報を基に受け入れ体制を整えている。	○				・幼稚園・保育園参観、情報交換の場を設定し、密な連絡相談を心がける。
	研修	綱紀粛正、セクハラ防止	・非遵行為防止等の研修に自分事として参加できたか。 ・豊殿小から非遵行為を出さない、いつも意識して行動できたか。	・実践できている。 ・非遵行為防止研修の充実と職員の間関係づくりを大切にし、非遵行為防止への雰囲気をつくられつつある。		○			・誰が見ても、正しいと思ってもらえる行動をできるように改めていきたい。
		自己研修	・自分自身の課題解決のため、日々の教材研究の実践、一人一公開に取り組めたか。 ・指導力を向上させるため、進んで研修へ参加できたか。	・実践できている。 ・互いの実践に学んだり、指導方法を相談し合う姿が増えてきた。	○				・引き続き、自己課題をもって研修に努められるようにしたい。

○ 評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった

*学校運営委員の皆さんには、評価ができる範囲で評価をしていただいた。 *黄色の網かけは「課題が達成できた項目」、青色の網かけは「来年度重点的に取り組みたい項目」を表